

第2編 基本構想



第1章 多古町の将来像

1. 町の将来像と基本的視点

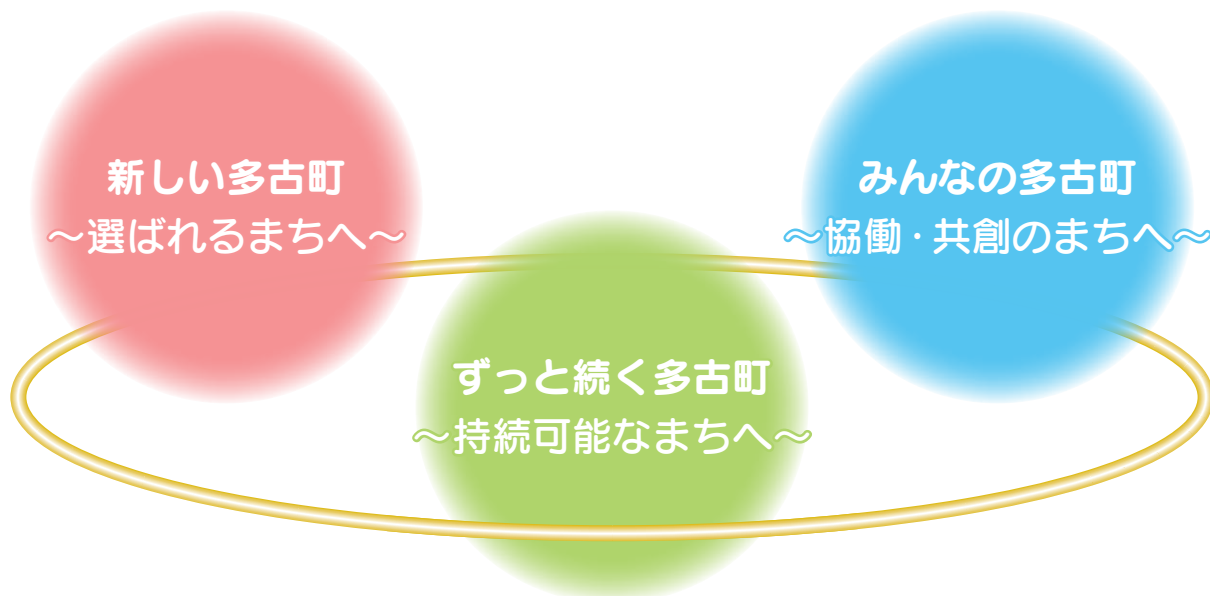
本計画における町の将来像と基本的視点は、令和3年3月に策定した「第5次多古町総合計画」の「基本構想」に掲げています。

また、国が示す「デジタル田園都市国家構想総合戦略」に基づく地域ビジョンとしても地域の将来像を掲げ、デジタル技術を活用した課題解決と地域の活性化を進めることで、世代を超えて暮らし続けたいまちの実現を図ります。

町の将来像 ～まちづくりの将来像と地域ビジョン～



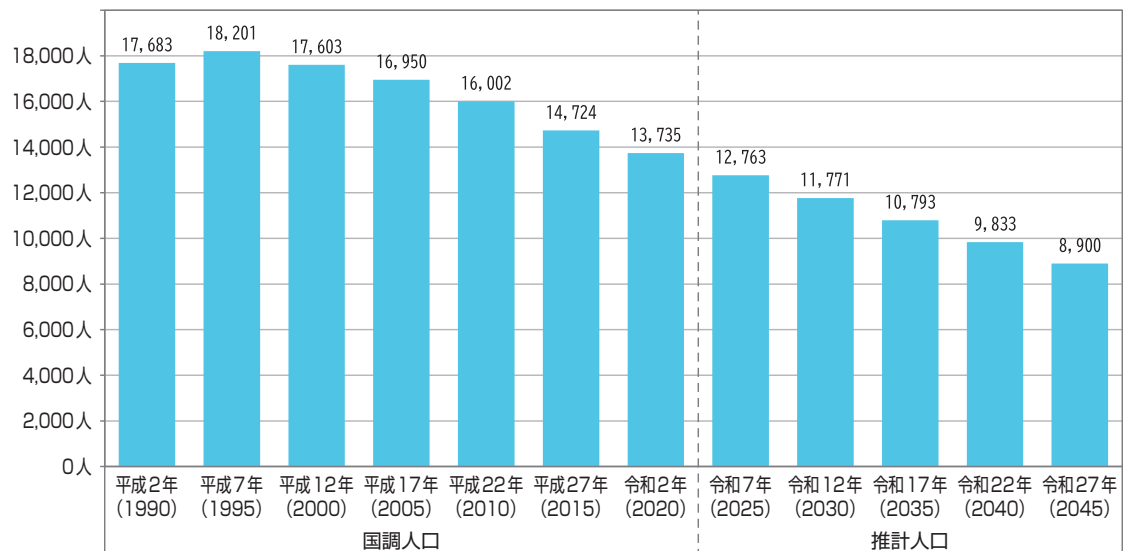
基本的視点 ～町の将来像の実現に向けた3つの基本的視点～



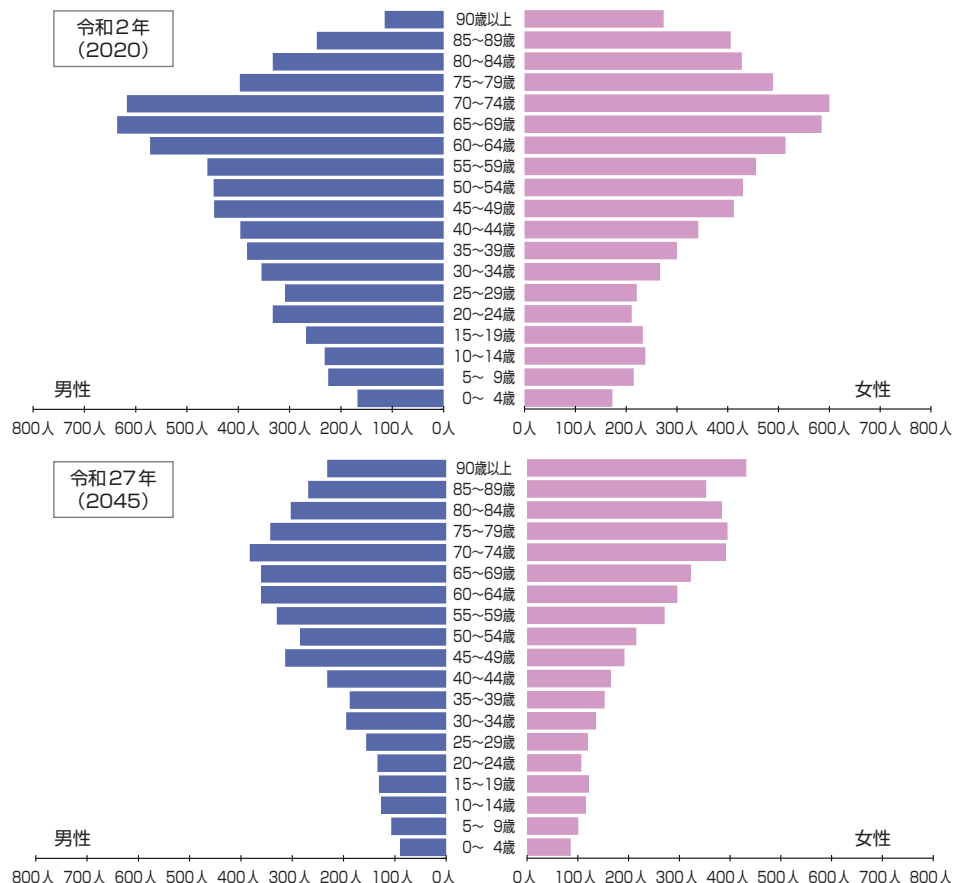
2. 今後の人口の推移（人口ビジョン）

多古町の総人口は一貫して減少傾向であり、今後も趨勢（すうせい）人口は更に減少することが想定され、人口減少・少子高齢化が進むと想定されています。

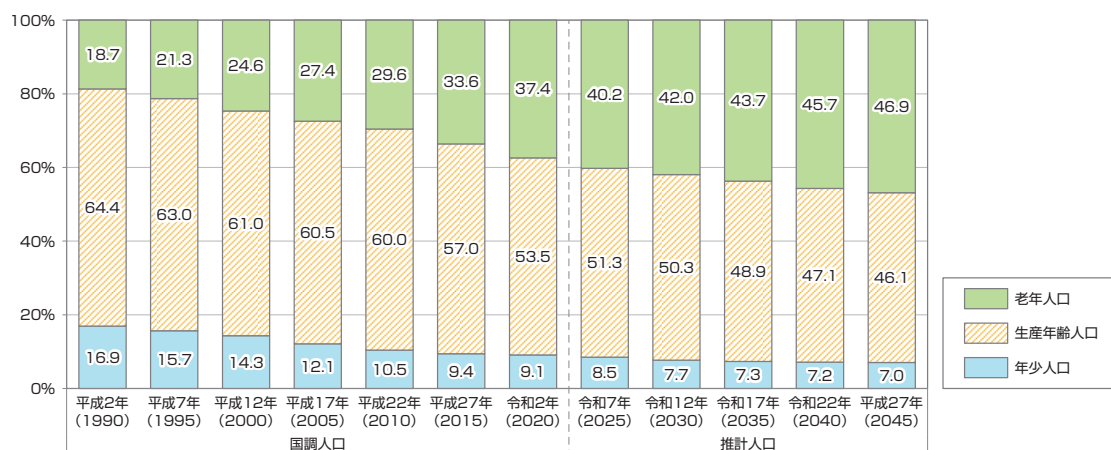
多古町の人口推移（趨勢人口 ※特段の人口減少対策を講じなかった場合の今後の人口）



人口ピラミッド（令和2〔2020〕年→令和27〔2045〕年）



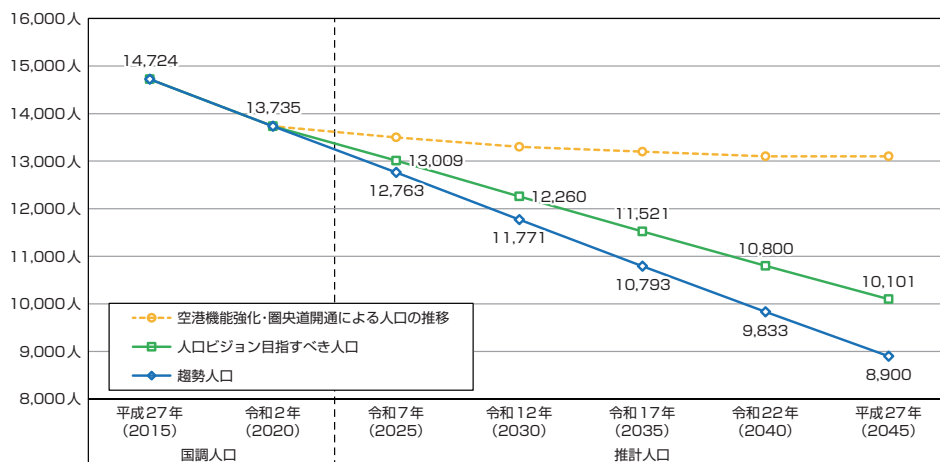
年齢3区分別人口比率の推移（趨勢人口）



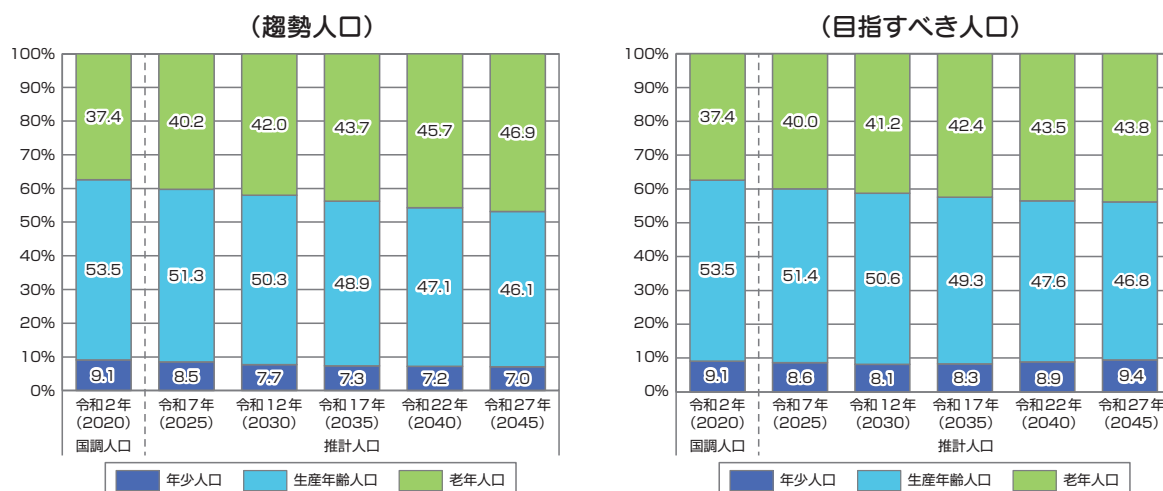
今後、多古町における様々な人口政策（本計画「第4編 第3期多古町総合戦略」参照）を進めていくことによる、多古町の目指すべき人口を以下に示します。

また、圏央道の開通や成田空港の更なる機能強化などの効果により、更なる人口減少抑制に取り組むことが重要です。

多古町の人口推移



年齢3区分別人口比率



3. 土地利用の方針

①都市計画における土地利用の方針

町の将来像の実現に向けて、総合的かつ計画的な土地利用を図るため、町では、以下の5つの基本的な考え方のもと土地利用の方針について定めます。

町民の生活や活動を支えるかけがえのない資源である土地を守り、最大限に活用していくために、長期的な展望のもと総合的かつ計画的な土地利用を図っていきます。

豊かな自然や歴史環境と調和した農村集落環境の保全と改善

河川環境と水田の保全、丘陵の斜面緑地の保全、畑の保全と活用、生活環境の改善等により、自然や歴史環境を維持・保全し、これらと調和した農村集落環境の保全と改善を進めます。

自然環境と調和した 新たな土地利用の誘導

圏央道の開通による広域交通の利便性の向上に対応して、自然環境と調和した新たな交流・産業機能を持つ土地利用を適切に配置します。

魅力ある中心市街地の形成

町の中心拠点である多古地区周辺において、都市基盤や生活環境の改善を図るとともに、民間活力の活用など、柔軟な手法により住宅地等の土地開発を推進し、更に魅力ある中心市街地の形成を図ります。

国際交流を促す土地利用の誘導

圏央道インターチェンジ整備や成田空港の更なる機能強化による広域交通の利便性を活かした産業・交流拠点及び空港用地内等の移転者や企業立地と合わせた就業者等の町内居住の受け皿となる住宅市街地の形成を目指し、成田空港周辺地域にふさわしい都市基盤の整備を図ります。

空き家・空き地等を活用した移住・定住・二地域居住の促進

新型コロナウイルスの感染拡大や働き方改革の推進を背景にテレワークなど柔軟で多様な働き方がより一層進んでいることを踏まえ、空き家や空き地の利活用など、勤務先や仕事は変えずに、本町で暮らし生活するライフスタイルを促進します。

②圏央道の開通や成田空港の 更なる機能強化に係る土地利用

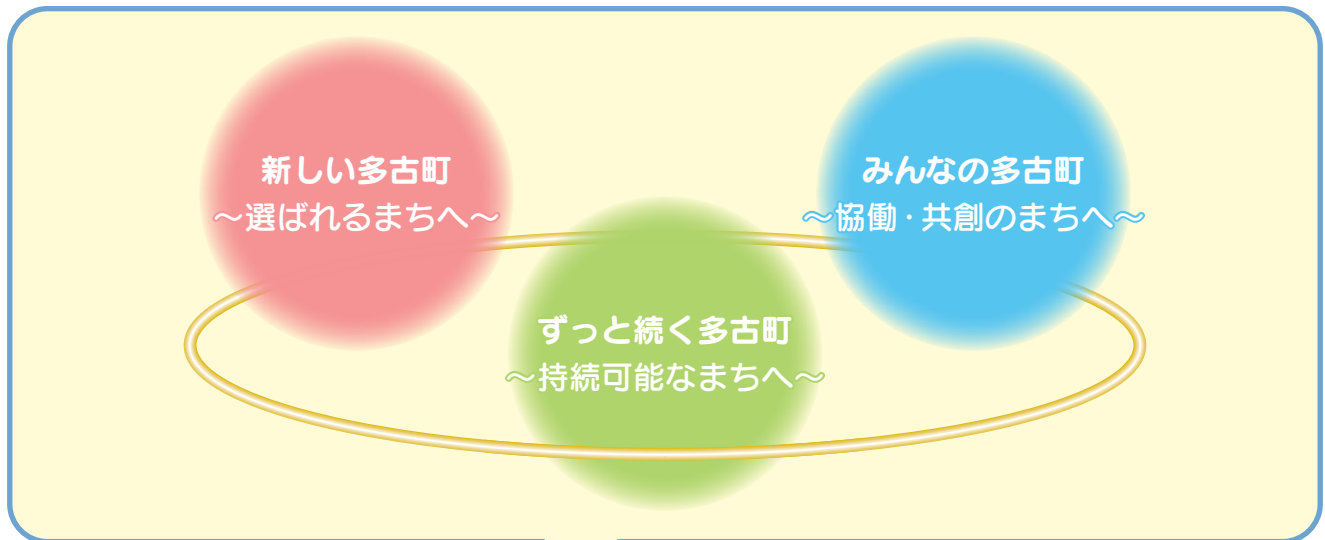
成田空港周辺9市町は、成田空港の更なる機能強化の効果を享受し持続的発展につなげるため、地域の特性を活かした地域づくりを実施します。多古町は「空港及びIC近接性を活かした国際産業拠点形成エリア」と「農業・子育て・田舎暮らし等、ライフスタイルに応じた個性あふれる生活実現エリア」の将来像（イメージ）が示されています。

出典：成田空港周辺の地域づくりに関する「実施プラン」



4. 施策の大綱

世代を超えて みんなで暮らしつづけたい 多古町



「総合計画 後期基本計画」基本政策	
基本政策1	空港と共生・共栄するまちづくり 〈圏央道・空港・シティプロモーション〉
基本政策2	共に支え合う、みんなにやさしいまちづくり 〈子育て・福祉・医療〉
基本政策3	活気と賑わいのある自慢できるまちづくり 〈産業振興・交流〉
基本政策4	自然と調和した安全・安心なまちづくり 〈環境・都市基盤整備・安全〉
基本政策5	学びと生きる力を育むまちづくり 〈教育・文化・人づくり〉
基本政策6	みんなが主役のまちづくり 〈町民参加・生きがい・行財政〉